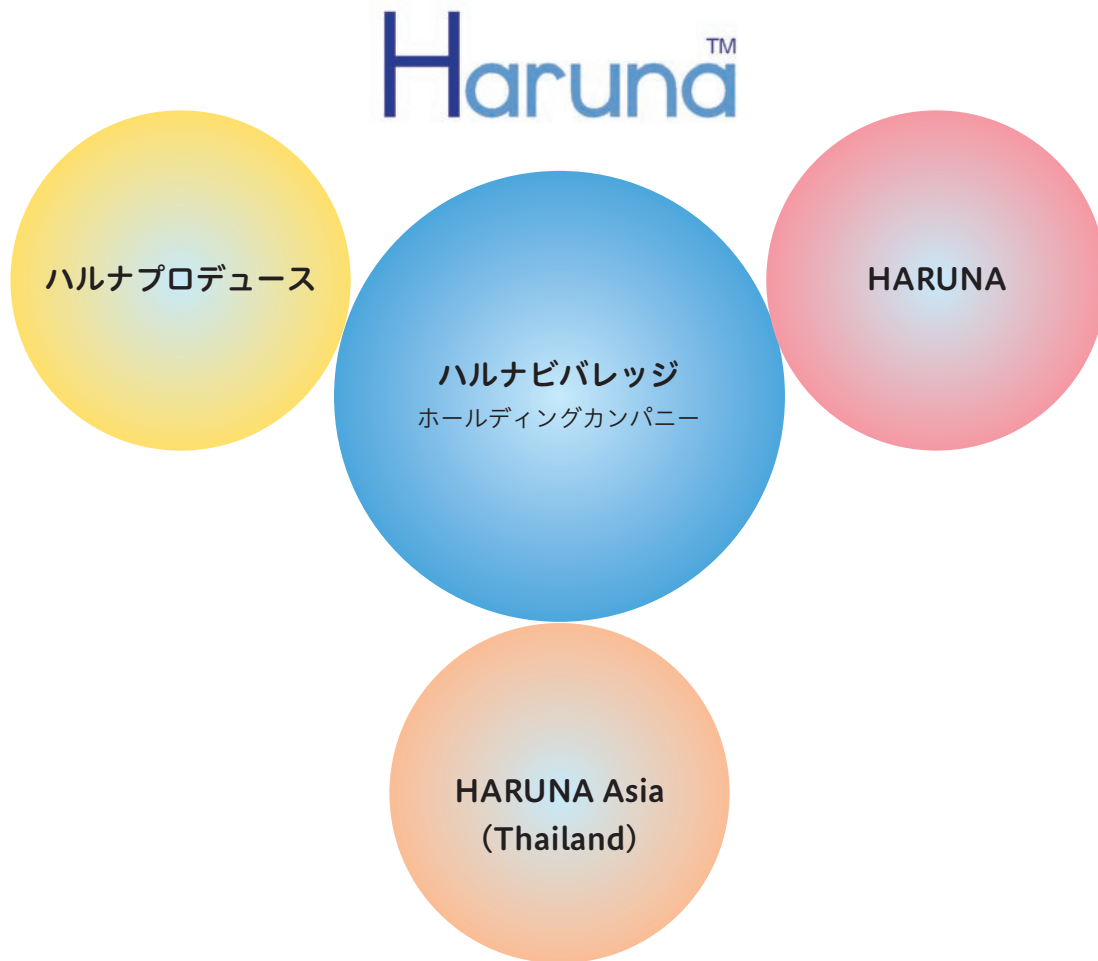
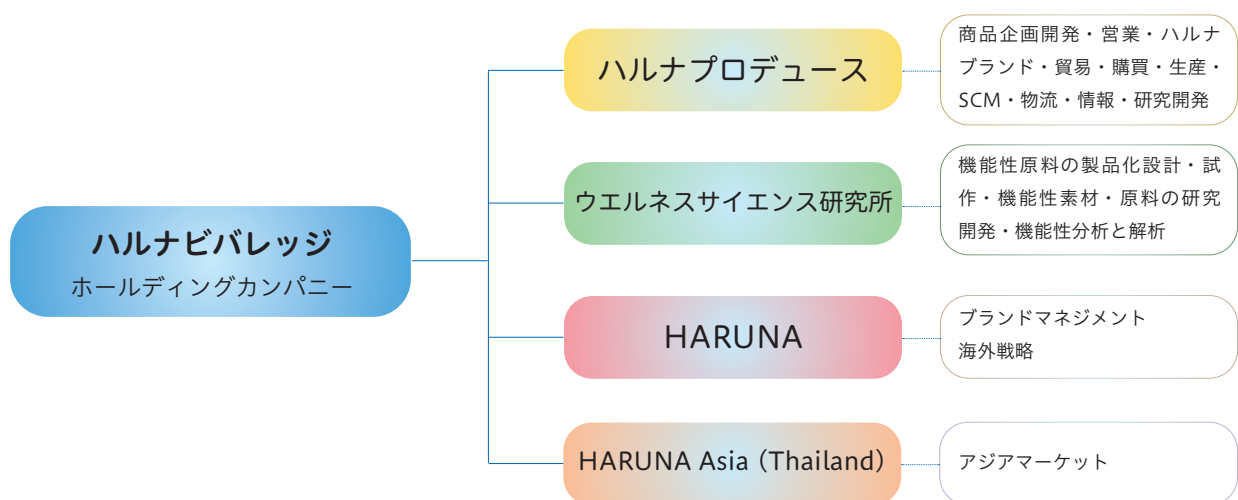


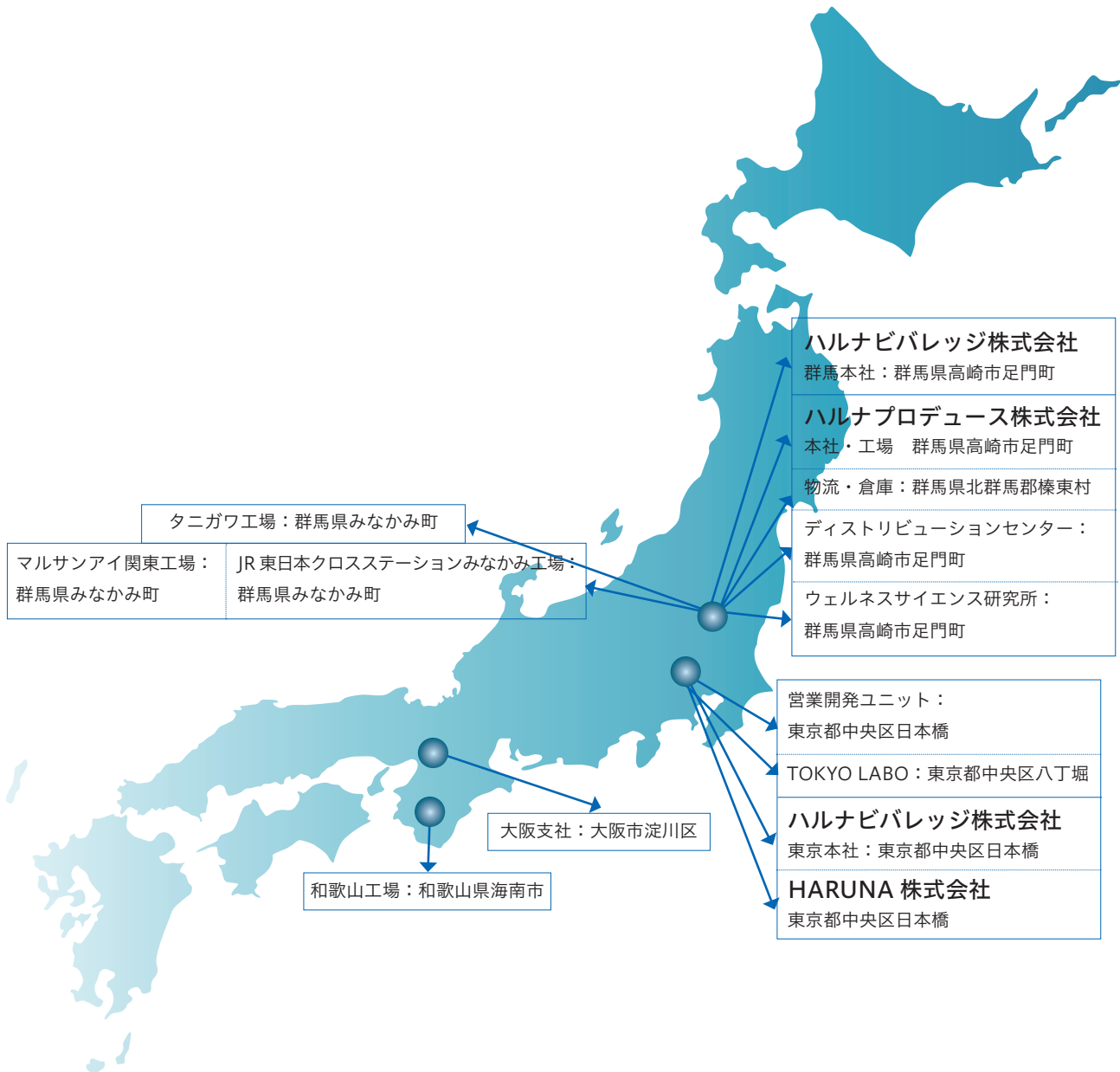
ハルナグループ



ハルナグループ事業



事業拠点



HARUNA 株式会社
Barcelona, SPAIN



HARUNA Asia (Thailand) Co., Ltd.
Bangkok, THAILAND

ハルナグループのあゆみ

〈受託業務を主として事業を拡大〉

草創期（1996 年～ 2000 年）

1996

2 月

平成 8 年 2 月 23 日に資本金 30 百万円でハルナビバレッジ株式会社を設立



第一工場稼働

5 月

第 1 回株式上場準備委員会開催

8 月

金融機関に対し月次決算の開示

11 月

東京にマーケティング本部設置

1997

3 月

従業員持株会発足

5 月

ハルナビバレッジ研究所設立

6 月

第二工場稼働

10 月

新日本監査法人による調査及び指導開始

2000

2 月

第三工場稼働

5 月

総合衛生管理製造過程（HACCP）取得に向けた合同委員会発足

2001

5 月

新日本監査法人による第六期決算調査及び指導

8 月

第三工場が JAS 工場として認定

2002

2 月

リサイクルシステム協議会発足

3 月

第 5 回第三者割当増資及び役員社員に対しストックオプション付与

5 月

新日本監査法人による第七期決算調査及び指導

8 月

四半期報告会を開催

2003

3 月

HACCP 認証取得に向け取り組み

4 月

環境会計導入

企業競争力の強化を図るため市場開発部門を設置

提案型企業への変革を目指し商品開発部門を設置

HACCP の考えを充実させるため「総合衛生管理委員会」発足

5 月

新日本監査法人による第八期決算調査及び指導



第三工場稼働

〈受託業務を主として事業を拡大〉

創成期（2001 年～ 2007 年）

8 月

中小企業経営革新計画承認（中小企業経営革新支援法）

10 月

「デカテス」産学官共同プロジェクト（高崎健康福祉大学・群馬県）

12 月

人財教育投資、生産合理化投資、総合衛生管理（HACCP）対応投資

第二工場において、クリーンルームと充填設備増設

2004

3 月

第 29 回国際食品飲料展 FOOD EX JAPAN2004 出展

10 月

人事基本理念制定

2005

3 月

物流関連企業ハルナロジスティクス株式会社設立

4 月

「製造者養成ビジネススクール」を開講（ハルナビバレッジ研究所附属）

6 月

ハルナロジスティクス株式会社 第 3 倉庫完成 740 坪

10 月

緑地公園「ハルナコミュニティガーデン」を整備



ビジネススクール開講

2006

1 月

ハルナロジスティクス株式会社 第 4 倉庫完成 860 坪

全社 IT 化に着手

2 月

創業十周年記念会



4 月

ハルナエコロジー株式会社、ハルナロジスティクス株式会社共に資本金 5 千万円に増資

9 月

全工場（第一から第三工場）において、HACCP 承認（厚生労働省発関厚第 0912001 号）

10 月

「地球市民ウィーク 2006 環境活動展」出展（主催：高崎市）

2007

3 月

国際食品飲料展 FOOD EX JAPAN2007 出展

4 月

ハルナエコロジー株式会社附属ウェルネスサイエンス研究所発足

ハルナエコロジー株式会社 EU 輸出用緑茶「YOSHI-GO」発表

6 月

オーパイ株式会社事業譲受契約締結 タニガワバレッジ株式会社準備開始

10 月

合併会社ハルナヨーロッパ設立

12 月

ハルナグループ全体会議開催開始

〈イノベーションと挑戦で新商品を生み出す〉

変革期（2008 年～ 2012 年）

2008

1 月

タニガワビバレッジ株式会社始動

4 月

ハルナインテリジェンスネットワーク株式会社設立

株式会社ハルナビバレッジ研究所は株式会社ハルナ品質環境研究所へ商号変更

群馬県初のプロ野球チーム群馬ダイヤモンドペガサスをパートナーシップスポンサーとして応援

6 月

CSR 報告書発行開始

ハルナロジスティクス株式会社第 5 倉庫完成

2009

1 月

タニガワビバレッジ株式会社 天然ガス設備稼働

組織再編に伴いハルナ品質環境研究所をハルナビバレッジファクトリー株式会社へ商号変更

2 月

ハルナロジスティクス株式会社 ハルナビバレッジ株式会社へ吸収合併

4 月

ハルナグループ組織再編スタート

ハルナマーケティング株式会社設立

2010

1 月

新規事業戦略センター設置

3 月

新商品開発プロジェクトチーム発足

5 月

「ハルナビジョン 2015」公表

7 月

ハルナグループ企業行動憲章・企業行動規範制定

2011

2 月

創業 15 周年記念誌「はじめなければはじまらない」発刊

3 月

ハルナエコロジー株式会社より HARUNA 株式会社へ社名変更

4 月

ハルナビバレッジファクトリー株式会社がタニガワビバレッジ株式会社を吸収合併

6 月

エネルギー対策委員会発足

2012

1 月

ハルナビバレッジファクトリー株式会社タニガワ地区 G 倉庫完成
震災対策委員会発足

2 月

プラントシステムイノベーション「見える化」にてコントロール室完成



ハルナグループ歴史資料館新設

4 月

ハルナビバレッジ（株）がワイエスロジスティクス（株）の株式 100% を取得し、ハルナロジスティクス株式会社に社名変更

8 月

ハルナ工場のエネルギー転換（A 重油から都市ガスへ転換）

第二変革期（2013 年～ 2017 年）

未来へ向けて（2018 年～）

2013

4 月

ハルナグループ 持株会社体制への移行に伴う組織再編スタート

7 月

HARUNA Asia Co.,Ltd 設立

2014

6 月

ビジネススクール榛名山麓研修所開所

10 月

ハルナジョイパック 自社ブローボトル成型機導入、稼働開始

11 月

ハルナロジスティクス タニガワ地域自社倉庫稼働開始

2015

2 月

HARUNA 国際食品飲料展 FoodexJapan2016 出展

7 月

国際的食品安全マネジメントシステムの「FSSC 22000」を取得

2016

1 月

創業者 青木清志が日刊工業新聞社主催の第 33 回優秀経営者顕彰「優秀創業者賞」を受賞

2 月

創業 20 周年記念彫刻「水滴」完成

4 月

ハルナプロデュース株式会社設立

ハルナジョイパック：小型容器飲料の生産が本格稼働

上毛新聞「心の譜」（ハルナグループ創業者・青木清志）連載

2017

2 月

群馬県の地域活性化キャンペーン「ぐんま愛 ここに生きる」を支援

12 月

経済産業省選定「地域未来牽引企業」に選定

2018

4 月

ハルナグループ組織再編スタート／長期経営ビジョン公表

12 月

日本経済団体連合会入会

2019

1 月

和歌山プラント LNG サテライト設備の導入

タニガワプラント蒸気供給共同スキーム事業の運用開始

3 月

スペイン販売会社と資本提携販売を開始

SDGs 私募債発行に伴う群馬県の県民基金へ寄付

11 月

テレビ番組「5 時に夢中！」内 TVCM 放送開始

2020

2 月

危機管理対策室委員会発足し、感染症対策や災害対策等を強化

3 月

群馬テレビ局との共同制作オリジナルプロモーションビデオ発表

高崎ディストリビューションセンター完成

SDGs 私募債（群馬銀行引き受け）発行額の一部をぐんま緑の県民基金へ寄付

4 月

ハルナトータル・リワードを運用開始／一般財団法人榛名美術設立

2021

2 月

創業 25 周年記念「Haruna Book」制作

3 月

ぐんま緑の県民基金へ寄付

4 月

FSSC22000（ハルナプラント）更新監査実施

11 月

お客様満足度調査を開始



2022

1 月

組織編成により、2 本部制から 4 本部制へ

2 月

社内公募企画にてキャッチコピーを決定

3 月

e- ラーニング研修制度の導入

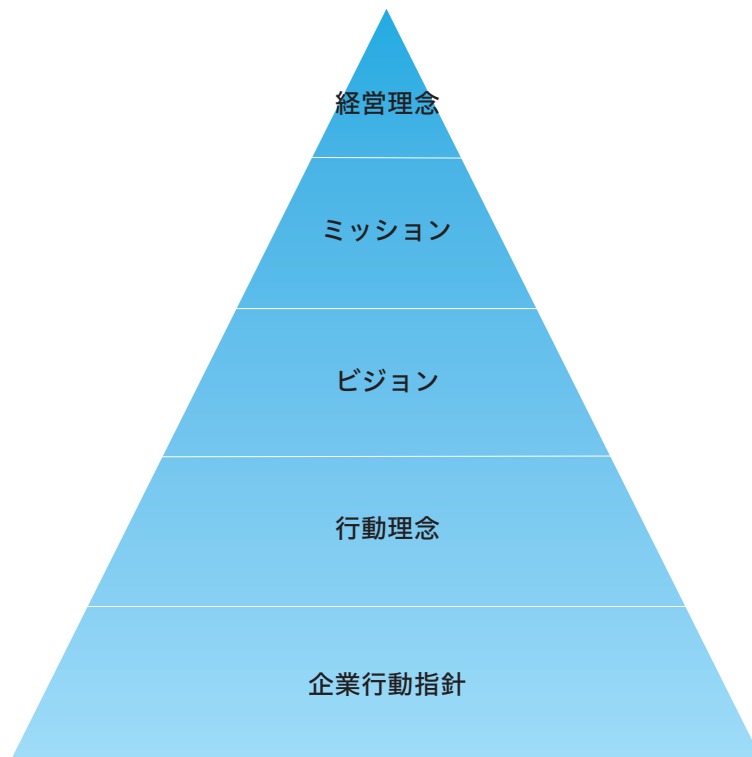
4 月

ウクライナへミネラルウォーターを支援

JR 東日本クロスステーション様との提携工場にて天然水ボトル

リング事業がスタート

ハルナグループ 企業行動基盤体系



経営理念

顧客志向を経営の核として
顧客評価に値する品質とは何かを問い
顧客思考を超える製造とは何かを考え
顧客歓喜の果実を己の収穫とする

ビジョン

ハルナグループの目指す姿

独創性ある飲料プロデューサーとして、
ステークホルダーの皆様から大いなる期待と満足を得られる企業へ

- ・顧客満足度最高レベルに向けて
- ・ステークホルダー皆様の幸せに向けて
- ・利益を伴う持続的成長に向けて

〈会社概要〉

ハルナビバレッジ

Haruna Beverage Inc.

創業：1996年2月23日	事業内容：持株会社・経営戦略・人事・財務経理																
資本金：4億5,390万円（発行済株式数9,543株）	連結売上高：254億円（2022年3月末）																
所在地 東京本社： 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-8-4 日本橋さくら通りビル2F TEL：03-3275-0191（代） FAX：03-3275-0192 群馬本社： 〒370-3531 群馬県高崎市足門町39-3 TEL：027-387-0101（代） FAX：027-387-0102																	
役員 <table><tr><td>Founder（創業者）</td><td>青木清志</td></tr><tr><td>代表取締役社長（CEO）</td><td>青木麻生</td></tr><tr><td>専務取締役（CSO）</td><td>栗原健一</td></tr><tr><td>取締役（COO）</td><td>中澤幹彦</td></tr><tr><td>取締役【非常勤】</td><td>小出信介</td></tr><tr><td>取締役【社外】</td><td>梅野匡俊</td></tr><tr><td>取締役【社外】</td><td>ピーター・トーマス</td></tr><tr><td>監査役【社外】</td><td>尾崎聖治</td></tr></table>		Founder（創業者）	青木清志	代表取締役社長（CEO）	青木麻生	専務取締役（CSO）	栗原健一	取締役（COO）	中澤幹彦	取締役【非常勤】	小出信介	取締役【社外】	梅野匡俊	取締役【社外】	ピーター・トーマス	監査役【社外】	尾崎聖治
Founder（創業者）	青木清志																
代表取締役社長（CEO）	青木麻生																
専務取締役（CSO）	栗原健一																
取締役（COO）	中澤幹彦																
取締役【非常勤】	小出信介																
取締役【社外】	梅野匡俊																
取締役【社外】	ピーター・トーマス																
監査役【社外】	尾崎聖治																



東京本社



群馬本社

〈会社概要〉

ハルナプロデュース

Haruna Produce Inc.

創業：2009年4月1日（設立：2016年4月1日）

事業内容：商品企画開発・営業・ハルナブランド・貿易・購買・生産・SCM・物流・情報・研究開発

所在地

本社・工場：

〒370-3531 群馬県高崎市足門町 39-1
TEL：027-372-6911 FAX：027-372-6912

マーケティング本部：

〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-8-4 日本橋さくら通りビル 2 階
TEL：03-3275-0191 FAX：03-3275-0192

TOKYO LABO：

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-15-11 YS ビル 1 F
TEL：03-6222-9187 FAX：03-6222-9188

大阪支社：

〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島 6-7-3 第 6 新大阪ビル 903 号
TEL：06-6195-1755 FAX：06-6195-1775

工 場：

〒379-1307 群馬県利根郡みなかみ町政所 1011
TEL：0278-62-1111 FAX：0278-62-1144

〒640-0441 和歌山県海南市七山 711-1

TEL：073-486-0231 FAX：073-486-0210

物流・倉庫：

〒370-3504 群馬県北群馬郡榛東村広馬場 3044-1
TEL：0279-25-8385 FAX：0279-54-6115

役 員

代表取締役社長	中澤幹彦
常務取締役	古市直也
常務取締役	山崎敦也
シニアマネージング エグゼクティブオフィサー	松下 護
シニアマネージング エグゼクティブオフィサー	三原修一
オペレーティングオフィサー	小池賢司
オペレーティングオフィサー	松井健一
オペレーティングオフィサー	中久保亨
オペレーティングオフィサー	清水秀憲

逆境に打ち勝ち価値創造！ 自助努力からチーム戦へ 社会貢献企業を目指そう！

2021 年度はまだコロナ禍であり苦労をしながらも、社員一同、心を一つにして難局に立ち向かい、結果、最高の成果につなげることができました。これもひとえにステークホルダーの皆様のご支援の賜物と存じます。心より感謝申し上げます。

そして、2022 年度は With コロナの時代に変わりつつあります。コロナとは共存しながら新しい社会活動として、どう変わり、どう向き合い、どう成長していくか、当社も未来創造への再スタートの一年と捉え、社会貢献企業として使命を果たしていく所存でございます。

そのような中ではありますが、2 月末にロシアがウクライナに侵攻し、世界に大きな影を落としました。エネルギー、原材料、包材などの価格がすべて高騰するなど、飲料業界を取り巻く環境は混沌としています。当社も飲料メーカーとして価値ある商品をお客様にお届けすることを目指すなかで、苦勞しながらも無駄のない生産、物流、販売を目指して取り組んでいます。本年はすべての業務で減量と価値創造が大きなポイントになると感じています。

この難しい 2022 年度をハルナプロデュース（株）はマーケティング本部、生産本部、ディストリビューション本部（新設）、協創事業本部（新設）の 4 本部制に組織再編いたします。

昨期は物流改革として、配送、在庫の無駄をなくすことで減量し、筋肉質の体質に変更することができました。2022 年度は本部を新設し、よりスリムな実務運営を目指します。

そして、新設組織として協創事業本部を立ち上げました。現在パートナー企業と様々な協創事業を行っておりますが、現在の世界情勢のなか、新規、協創事業を行うことでプラスの価値を生み出したいと考えています。飲料プロデューサーとして、新たな価値創造を目指してまいります。

また、東京に TOKYO LABO（商品開発）を新規開設いたしました。東京で開発試作することで新たな商品提案など、スピードを上げて取り組むことを目的にしております。よろしくお願いいたします。

今期は昨期以上の激動の 1 年が予見されます。そのなかで『自助努力とチーム力強化』『チャレンジと価値創造』『減量から体質改善』を推し進めて、明るい未来を目指したいと祈念しております。今後もハルナグループにご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

ハルナプロデュース株式会社
代表取締役社長
中澤 幹彦



営業開発Unit

環境の変化の中でさらなる価値向上を目指します

2021年度は新型コロナウイルス対応も2年目となり、移動制限やソーシャルディスタンス、テレワークの普及など新しい行動様式が定着しました。その中でも自社ブランド、顧客ブランドそれぞれの顧客層に対して積極的な課題解決型提案活動を展開することで、新規開発商品やリニューアル商品、環境配慮型商品を数多く立ち上げることができました。また、パートナープラントとの連携拡販強化もあり、過去最高のグループ販売数量を達成することができました。

今年度も今まで以上に、業界全体の課題やお客様の抱える課題に向き合ってまいります。新設した東京開発室「TOKYO LABO」による営業と開発が一体となったチーム型営業にて、徹底したお客様別One to Oneマーケティング戦略の実践とコーポレートブランドの展開強化を推進することで、お客様にとって必要とされる価値ある商品をこれまでになかったレベルとスピードで提案できる体制を目指します。「もっと新しいもの、もっと美味しいもの、もっとドキドキするもの、もっと感動するもの」を届け続ける活動を行ってまいります。

ハルナプロデュース株式会社
常務取締役
山崎 敦也

2022年度の取り組み

- ① 自社プラント年間安定受注環境の継続
- ② One to One マーケティングの掘り下げ
- ③ 環境配慮型商品の進化
- ④ コーポレートブランドの展開強化
- ⑤ 新規領域での市場創造



環境負荷低減への取り組み

ハルナグループは持続可能な社会を目指すために、環境にやさしいラベルレス商品やボトルの軽量化を進め、脱炭素化による環境負荷低減に取り組んでまいります。



ペットボトルの軽量化

商品容器（PET: ポリエチレンテレフタレート）の使用量低減による CO₂ 排出量の削減に取り組んでおります。

	2022年	2025年	2030年
軽量化による 目標削減量	大型PETボトル 5800万本 783 t 小型PETボトル 4000万本 160 t	大型PETボトル 6800万本 918 t 小型PETボトル 軽量化からリサ イクルへ	大型PETボトル 8900万本 1,202 t

商品のラベルレス化

商品に付随しているラベルのプラスチック素材をなくすことによる CO₂ 排出量の削減に取り組んでおります。



ディストリビューションUnit

お客様ごとに適切なソリューション及び物流サービスを提供

新型コロナウイルス後の経済活動復興の一翼を担うべく、個々の力をチーム力に変え、内部（社内）外部、両方のネットワークをフル活用し With コロナの1年を力強く進んでまいります。

ハルナプロデュース株式会社
シニアマネージング
エグゼクティブオフィサー
三原 修一



2022 年度事業方針

感染症、災害対策等、リスク対応力を強化し製品の安定供給を実現

2022 年度事業戦略（主要項目）

1) 物流企画 sec

- ① 配送時のトラック積載効率向上とリードタイム短縮を進め、お客様要請への対応力を進化させてまいります。
- ② コンビニエンスストア様向け配送に対し作業の改善を進め、消費者様の実態に近づく物流サービスを実行していきます。

2) 倉庫 sec

- ① 各拠点間の在庫情報共有と情報の活用に対し、自社倉庫の出荷率を向上させ外部コストを削減します。
- ② 外部倉庫の運用は、さらに合理的なオペレーションと横持ちコストの削減に取り組む。また、外部倉庫における製品品質も自社倉庫と同等を維持してまいります。

3) 業務環境改善の取り組み

- ① すべての物流業務に関し、環境配慮の対策を創案・実行し HdX 等による省力・省人設備導入等にて競争力のある物流部門として進化していきます。

2021 年度物流業務の取り組みについて

■ 大手流通様、コンビニエンスストア様の配送は全国各地域に拡大しましたが、個々の配送を適正に行うことで全体コストの抑制を実現しました。

■ 製品在庫のコントロールにおいて、2021 年度の総製品在庫数はやや多めの在庫数でスタート。GW 前の期間に出荷増となり、以降は前年度に対し 15%～20% 少ない在庫数で推移。群馬では、高崎ディストリビューションセンターの運用を改善し、無駄な横持ち費用の削減に成功しました。また、コスト影響の高い和歌山地区の外部在庫、横持ちも減少させたことで計画比で大幅なコスト抑制となりました。

〈外部倉庫費用の抑制〉



〈配送用トラックの低コスト確保〉



製造Unit

個人や組織の繋がりによるパートナーシップから生産性向上を図る

ハルナプラント・タニガワプラント・和歌山プラントの3つの自社生産拠点と、全国のパートナー工場が連携し、日本全国や海外のお客様へ PET 飲料をお届けしています。

With コロナにより、人々の意識や生活様式に大きな変化が起きている中で、清涼飲料水の需要にも大きな変化が起きている。

そのような状況から、新たな商品の導入に向け商品開発や設備対応を進め、2021 年度も新商品の生産を推進しました。これからも、より多くのお客様に安心して商品を購入していただくため、品質の高い商品を、より効率的に生産する取り組みを進め、皆様のご要望にお応えしてまいります。



ハルナプロデュース株式会社
製造統括 兼 製造 Unit
第 6 プラント統括責任者
オペレーティングオフィサー
小池 賢司

2021 年度の取り組み成果

■フル耐熱 2L ペットボトルとして、国内最軽量 47g の
新型ボトルをボトルメーカーと協同開発

■新商品の生産に向けた設備対応を推進

- ・ EC で需要が高まっている 2L 飲料の 9 本入りケースを導入
- ・ CVS で需要が高まっている 1L 飲料の生産を開始
- ・ 健康志向による 1L 食酢飲料の生産プラントを増強（西日本でも生産開始）
- ・ リサイクルペットボトルの導入強化
- ・ 環境に配慮したラベルレス商品の増強
- ・ 段ボール軽量化に向けたショートフラップカートンの導入など



2022 年度の取り組み

- ①一人ひとりが知識や技術の専門性を深め、個人や組織の繋がりによるパートナーシップから生産性の向上を図り、多品種生産の対応力を強化します。
- ②多様化する消費ニーズを捉えた新たな液種や、SDGs も踏まえた新たな容器の導入を推進し、付加価値のある新たな需要に対応します。
- ③ HdX（ハルナデジタル・トランスフォーメーション）の推進により生産改革を図り、より効率的な生産と品質レベルの向上に取り組むことで、スマートファクトリーの構築に繋がります。

品質保証Unit

品質の高い、安全でおいしい製品を！！

2022 年度も新型コロナウイルスの感染は落ち着いた状況ではありますが、人々が対策を取りながら活動し前に進もうとしています。

私たちも品質の高い、安全でおいしい製品をお届けするために、食品安全マネジメントシステム FSSC22000 を効果的に運用し、PDCA サイクルを機能させ工場品質、製品品質の維持向上に取り組んでいます。

品質部門は年々、女性社員の比率が高くなってきています。今年度も昨年に続き女性新入社員を迎えるなど、組織の活性化にもつながっています。個人力や組織力向上のため、仲間とのコミュニケーションを大切に、SDGs やデジタル化の活動に、より新たな価値を創造し、安全な製品をお届けすることで社会へ貢献してまいります。



ハルナプロデュース株式会社
品質保証 Unit
オペレーティングオフィサー
清水 秀憲

組織と主な役割

品質保証 Unit は品質管理 Sec とテクニカルプロデュース Sec で構成されております。それぞれの主な役割についてご紹介します。

品質保証 Unit

品質管理 Sec

- ◆ 自社やパートナープラントで製造される製品の分析
pH や味、微生物などの検査を行い、製品の安全性を確認しています
- ◆ 製造環境の管理
衛生的な環境で安全な製品をつくるため、汚れや微生物などの管理をしています
- ◆ 製品基準書の作成
配合表や工程表などの基準書をもとに、品質の安定した製品がつくられます
- ◆ ご指摘対応
ご指摘・お問い合わせ品について調査し、お客様への報告書を作成しています
- ◆ FSSC 事務局
品質マネジメントシステム（FSSC22000）の運用管理のとりまとめをしています
食品安全の国際認証システムの運用により、安全な製品をお届けします

テクニカルプロデュース Sec

- ◆ パートナープラントとの協同作業
国内、国外のパートナーである工場に製造をお願いするにあたり、一緒に安全な製品をつくるため、生産立会や定期訪問などを行っています
- ◆ 技術サポート
新製品の開発や製造ラインへの落とし込みなど、グループの開発や営業部門、海外事業部門へアドバイスなどをし、スムーズに開発や製造、販売が進むように技術サポートを行っています

営業開発Unit 商品創造Sec

世の中にない商品を生み出す楽しさ
ワクワク感を大切にしたモノ・コト創りにチャレンジ

日々変化している環境・トレンド・ニーズを捉え、お客様のライフスタイルや価値観に合わせた「価値」ある商品作りをモットーに日々開発に取り組んでおります。2021年は、環境に配慮した商品や健康訴求商品の開発に力を入れてまいりました。2022年は、よりこだわりのあるオリジナル商品をスピーディーに開発し市場に送り出すとともに、美味しさだけでなくコミュニケーションを生み出せる話題性のあるモノ創りにチャレンジしてまいります。



ハルナプロデュース株式会社
シニアマネージング エグゼクティブオフィサー
(マーケティング本部)
松下 護

「お客様に選ばれ続ける商品」

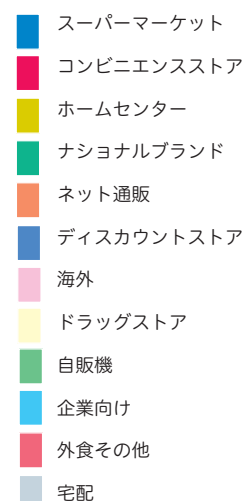
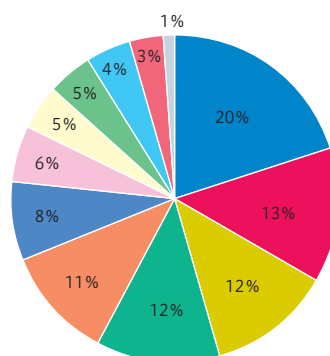
「感動を与える商品」創りに

チャレンジし続けます！



2021 年度業態別 開発実績

業 態	件 数
スーパーマーケット	18
コンビニエンスストア	12
ホームセンター	11
ナショナルブランド	11
ネット通販	10
ディスカウントストア	7
海外	5
ドラッグストア	4
自販機	4
企業向け	4
外食その他	3
宅配	1
合計	90



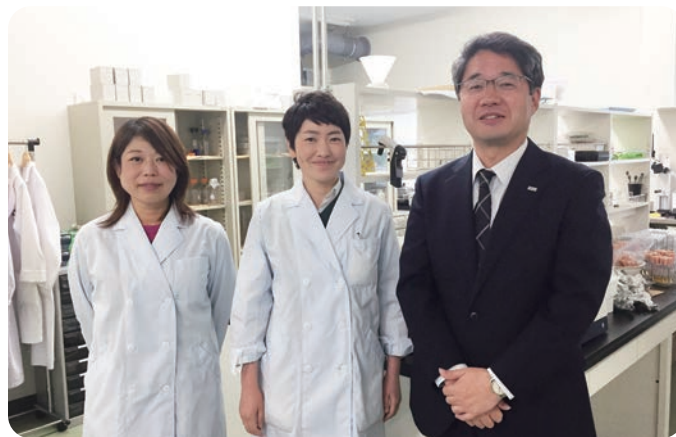
今後も様々な業態に向けて新しい価値を創造していきます！

ウエルネスサイエンス研究所

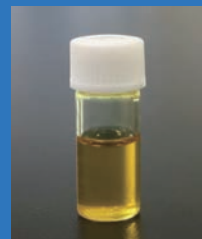
未来につなげる新しいを、カタチにする

ウエルネスサイエンス研究所では、「新しい」を合言葉に、未来につながる研究開発を推し進めております。

昨年度は長年取り組んでまいりました抗菌物質の原料化に成功し、本年度から清涼飲料水の原料として利用を進めてまいります。また、健康に関わる商品については、常に新しいモノが求められており、そのような市場に対応した健康飲料、機能性飲料の研究開発も、引き続き強化し推し進めてまいります。



研究所では、これまでに 256 種の植物性抗菌原料のスクリーニングを行い、非常に抗菌性の高い成分としてアシタバカルコンを見出しました。しかし、アシタバカルコンは水に溶けない成分であったため、検討を重ね、独自技術で可溶化したものがアシタバエキス H（特許出願中）です。低濃度で抗菌性を示すため、飲料の風味を変えません。ぜひ、たくさんの飲料商品に利用していただきたいと思います。（開発主担当：渡辺夕子）



研究を進める中で、その一つにある抗菌研究については成果が出始めています。抗菌に関する研究成果は、商品の微生物的な問題を解決する手段として、ハルナグループとして大きな知的財産となっています。研究所を通じ、菌の安全性を考慮した商品化判断が可能となり、さらに天然物の抗菌原料探索から新規抗菌原料（明日葉）を見出し、商品に利用できるよう原料化を完成させました。本年度、本格的な展開を行っていきます。また、研究所の分析解析技術を用い、エビデンス創造による商品化を今年度は強化し推し進めてまいります。



所 長
邑上 豊隆

東京開発室「TOKYO LABO」開設！



より迅速にお客様のご要望にお応えできるよう、東京開発室を2022年4月に新設いたしました。場所は東京駅から徒歩15分、東京本社から5分の位置にあります。

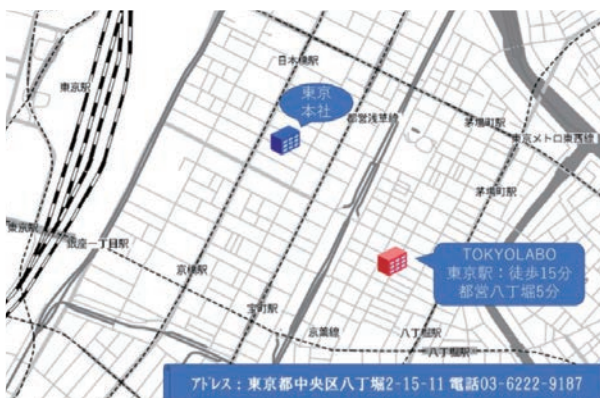
試作サンプルの作製設備も整えていますので、その場でご希望に合わせた風味の確認を進めることが可能となります。新商品立ち上げを、お客様とともに、これまで以上にスピーディーに行うことが可能となります！ぜひともお気軽にお立ち寄りくださいませ。

商談ルーム

商談スペース横に試作ルームがありますので、商談中にひらめいたアイデアをすぐに試作し、試飲することが可能となります！



ご希望の味をその場で実現いたします！



アドレス：東京都中央区八丁堀2-15-11 電話03-6222-9187

市場環境の変化スピードは加速しており、消費者の生活意識の変化や価値観が多様化している中、「お客様に喜んでいただける商品をスピーディーに市場に送り出す」をモットーに東京開発室をスタートいたしました。節約志向商品から潜在ニーズを捉えた商品まで、皆様に感動を与えるモノ創りを追求してまいります。

ハルナプロデュース株式会社
東京開発室セクション
リードオフィサー
神田 玲子



協創事業

アライアンスパートナーとの協創事業の拡大を進めます

ハルナグループは、これまでもタニガワプラント敷地において、マルサンアイ株式会社様の豆乳事業を始めとしたパートナー企業様と新たな価値の創出や価値向上を目的として、協創事業にご協力させていただいております。

今回、新たに群馬県みなかみ町において株式会社 JR 東日本クロスステーション様との協創事業である、みなかみ新工場での天然水ボトルリング事業がいよいよ今期スタートとなります。

From AQUA ブランドのさらなる価値向上と安定供給の実現に向け、社員一丸となって天然水ボトルリング事業に携わらせていただき取り組みを進めてまいります。

また、引き続きマルサンアイ株式会社様を始めとしたパートナー企業様との取り組み強化、及び新規アライアンスパートナー様との新規事業の創出を進め、新たな価値創造を行ってまいります。

ハルナプロデュース株式会社

常務取締役 古市 直也

常務取締役 山崎 敦也

みなかみ新工場概要

名 称	JR 東日本クロスステーションみなかみ工場
住 所	群馬県利根郡みなかみ町月夜野深澤 2223 (上毛高原駅より徒歩約 10 分)
事業主体	株式会社 JR 東日本クロスステーション
事業内容	天然水「From AQUA」のボトルリング
稼働開始	2022 年 4 月～



〈会社概要〉

HARUNA

Haruna Inc.

創業：2008年4月1日

事業内容：ブランドマネジメント・海外戦略

所在地

〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-8-4 日本橋さくら通りビル 2F

TEL：03-3517-5745 FAX：03-3517-5759

役員

代表取締役社長

青木日出生

取締役【非常勤】

青木麻生

取締役【非常勤】

栗原健一

Harunaは「おいしさ」と「楽しさ」が詰まった
個性あふれるプロダクトを取り揃え、
皆さまにお届けいたします



〈会社概要〉

HARUNA Asia (Thailand) Co.,Ltd.

創業：2013 年 4 月 22 日

事業内容：アジアマーケット

所在地

32/23, Sino-Thai Tower 2F., Sukhumvit 21 Rd. (Asoke), Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok,
10110 THAILAND
TEL : +(66) 2258-0937 FAX : +(66) 2258-0939

役員

代表取締役社長
取締役兼執行役員

青木日出生
松田貴之

HARUNA Asia は 2013 年の設立より、日本で培ってきた飲料ビジネスのノウハウ及び、プライベートブランドビジネスの経験を生かし、タイ現地で支持いただける商品の開発、営業展開を目指してきました。

また、ASEAN においては、タイをハブに周辺国への展開及び、日本とのビジネス展開を強化し、さらにブランド力を磨き、新たな商品・市場を創り出します。

そして、海外戦略を融合して日本、東南アジアを中心に、欧米市場にも目を向け、新たなビジネスモデルで躍進していきます。

HARUNA 株式会社
HARUNA Asia (Thailand) Co.,Ltd.
代表取締役社長
青木 日出生



海外事業 Haruna Asia (Thailand)

Haruna Asia (Thailand) の 2021 年度については、タイを始めとした ASEAN マーケットにおいて新たなビジネスにチャレンジした年となりました。

主にチャレンジしたビジネスとして、

①タイ

日本から Haruna ブランド茶匠伝説の輸入を行い、タイの日系小売り企業や飲食店へ販売。

② ASEAN

日本コンセプトの紅茶シリーズ（ストレート、レモン、ミルク）の開発を行い、タイを始めとした ASEAN 地域（香港、台湾、シンガポール、マレーシア）に輸出販売。

③ ASEAN

日本のお茶メーカー：カネー言製茶の「一言茶」ブランドを使用した日本茶の開発を行い、日本から香港へ輸出販売。



Takashimaya、ドン・キホーテ、Suvarnabhumi Airport、MaxValuなどで販売中

様々な社会問題により、依然として世界情勢は不安定な状況が続いておりますが、タイにおいては、2021 年 11 月より観光客を隔離期間なしで受け入れを行い、今年 5 月からは、Test&Go（隔離免除プログラム）廃止や入国時の PCR 検査不要（ワクチン接種済みの場合）となり、社会が回復基調へと歩み始めております。

Haruna グループが日本で培ってきた価値を、まだ提供できていない国や販売チャンネルが多く存在するので、チャレンジを行い、海外ビジネスが拡大できるよう取り組んでいます。



HARUNA Asia (Thailand) Co.,Ltd.
取締役兼執行役員
松田 貴之